

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第6回）「心の教育の推進」部会 要点録

開催日時	平成21年9月15日(火) 午後4時00分～午後5時40分	
会場	練馬区役所本庁舎11階 1102会議室	
出席者	委員	生越詔二、石原正義、久能正吾、一ノ瀬秀治、山崎高志 濱元雅俊、相田真人、小林昭文（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	栗原健 指導主事

1 協議

委員

(1) 目指す子供の姿について、①第9学年の子供の姿と、②各学習期の子供の姿について。

委員

この前の最後に出た課題は、目指す子供像と指導の重点をどうするのか。今日はそれを考えていただくということで、深めていけばよいのではないかと。

アドバイザー

議論のたたき台に。前回、児童・生徒の発達をどんなふうにも押しやえたらいいのかという話があった。文科省内に子供の徳育に関する懇談会というのが設置されており、そこの「子どもの徳育の充実に向けた在り方について」の報告の案が手に入った。この中の一部が、本部会で議論している中身と重なっている部分がある。直接この部会で担当するのは、(2)学童期と(3)青年前期(中学校)。これを見ると、本会で検討してきた内容がほぼ組み込まれている。小学校低学年の○印の三つ目。一つは『人として、行ってはならないこと』についての知識と感性の涵養や、集団や社会のルールを守る態度など、善悪の判断や規範意識の基礎の形成となっている。これまで議論してきたことを総括したような形。それから「自然や美しいものに感動する心などの育成(情操の涵養)」。これが小学校の1、2、3年では課題として大切なものだろう。続いて、4、5、6年生をイメージしたもの。発達をふまえているので、「抽象的な思考の次元への適応や他者の視点に対する理解」「自己肯定感の育成」「自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養」「集団における役割の自覚や主体的な責任意識の育成」「体験活動の実施など実社会への興味・関心を持つきっかけづくり」。このあたりは多少参考になるかも。さらに青年前期、ここでは(中学校)、3点ほど出ている。「人間としての生き方を踏まえ、自らの個性や適性を探求する経験を通して、自己を見つめ、自らの課題と正面から向き合い、自己の在り方を思考」「社会の一員として他者と協力し、自立した生活を営む力の育成」。このあたりが、小学校の低中をふまえたものとしてとらえることができるかと。それから「法やまじりの意義の理解や公德心の自覚」。議論しようとしている目指す子供の姿、第9学年の子供の姿を考えると一つの参考になると思う。

委員

各重点項目で目指す児童像・生徒像を考えてきた。Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期と、基本的には現道徳の学習指導要領を参考にした。中学校はわからないので、使えるところを抜き出した。

委員

試案として各重点項目で目指す児童・生徒像を作って、それでⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期ではどう育てるかを考えた。どの学年でもこの時期にはこれを重点でやっていく感じで並べてみた。

委員

発達段階をふまえてということで、臨床心理士の先生に、自尊感情、規範意識、思いやりの心、生命尊重、社会連帯の自覚を、どの時期からやるのが一番ふさわしいのかと聞いて、まとめた。小学校のことがわからないので、まず就学前の発達の概念図で話を聞いた。小学校就学時点でのトラブルは、どのへんに専門家が注目しているか。3歳児くらいまでに、いろいろなことで甘えられる満足感がたくさんあるか、ないかが非常に重視されている。それが、発達的に信頼感のベースになるのではないか。それがないと、他者に目が向き始めてしつけが入っていかない。そういうことが就学前にある。小学校入学後は、自尊感情をしっかりやらなければいけない。担任の先生とか学校に対する信頼関係の構築がないと、このあとが積み上がらない。入学時点でいろいろな集団ルールなどがあるが、個人や集団に対してアセスメント的なものを持って9年間の教育をスタートしないと、このあとどうするかは厳しい。そういうことが小中一貫の学校で必要ではないか。自尊感情は9年間積み上げていくことが可能では。規範意識は、前提として自尊感情的なもので信頼関係をつくってからでないと。本当の意味の規範意識を育ててリーダーシップをとれるところに結びつくのは、3、4年生くらいからではないか。

委員

行事から何ができるかを考えた。今日の資料は、緑の矢印のところに書いてある太文字のところ。Ⅰ期では「様々な活動から思いやりのある子どもになろう」。Ⅱ期は「移動教室を通して自分の役割を最後までやりぬく子どもになろう」。Ⅲ期が「自分の進路先をどうしようと発表できる子どもになろう」というのが、最終的に一貫校の校長の目指す重点目標になっていく。宿題と関係ないが、何曜日の何校時に道徳の授業をやるが一番いいかを書いた。あと中学校34校に内容項目の指導案を作ってもらおうと思った。全体計画を作る上で、保護者の意識調査としてどこが一番重要かを知る必要がある。

委員

各項目のいわゆる最終目標と、各期・学年ごとの育てたい子供像、あとは指導の重点を一覧表にした。指導にあたっては、練馬の資料に『練馬の子ら』とか基本調査関係を活用していると考え。あとは外部講師、保護者、地域の方、専門家の方々にも指導に入ってもらって、具体的に興味関心が抱けるような指導をしてもらえばいいと思った。社会連帯には、文化理解を入れてみた。郷土を愛するとか地域、広く国際理解が重要である。連帯感を深めていくために、文化を知ることが一つの手がかりになると思い、取り入れてみた。

部長

重点項目、各学習期の目指す児童・生徒の姿ということで、五つの重点項目の中でⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期の児童・生徒が最後はこうあるべきというものを並べてみた。文言については、まだ検討しなければいけないと思う。

委員

資料の形式が違うので、本部会としてどうまとめていくか。非常に重要なポイントが出ている。全体的に書いてあるものと、重点的にポイントを絞って書いてあるもの。まず、9学年の子供の姿がはっきり読み取れるものを。

部長

キャリア部会の原稿を見ると、マトリックスにまとめていくのがいい感じはする。

委員

縦軸・横軸という意識より、9年間子供たちをはぐくんでいく上で、最終学年にどういう子供にしたいのかが一番大事。そこが決まらないと、各期とか各学年はなかなか見通しが立たない。だから、事務局先生から出ていた今日の次第（1）第9学年の子供の姿は、9年間を見通して卒業時期にこういう子供にしたい、育て上げたいということではないか。それが決まってから、各学習期Ⅰ～Ⅲ期のものを作成し、余力があれば、各学年のものを作成したい。濱元先生のは、まさしく目指す子供、9年間を通して育て、最終的には規範意識ではこういう子供に育てたいということと、それをさらに細かくⅠ、Ⅱ、Ⅲ期という形で書いてある。その文言を検討していけばよいのでは。ただ、本当は5項目だけでは収まらないものがあると思う。

部長

目指す児童・生徒像で、具体的な言葉を重ねていったらどうか。例えば、法やきまりの意義はいろいろなところに出てきている。それで共通するところを一つの簡単な文章にする。

委員

アドバイザー先生の資料の最後「青年前期（中学校）」三つのポイント。いろいろな意味で、今お話があった社会連帯の部分が十分入っている。本分科会としてこれを検討し、もう一つは五項目について、第9学年の到達目標なり目指す子供の姿を言葉としてまとめる。

委員

今まで作っていた道徳教育の全体計画を想像すると、学校教育目標のあとに道徳教育の重点目標がある。そこに、この五つのものが入る。今検討しようというのは第9学年の最終的な形だが、その重点目標の上にあるもの。今まで、そういうことは各学校では考えてなかった。

委員

私もこういう子供、こういう心を持った子供にしたいと書いた。9学年を卒業する頃に、これを身に付けてほしいということ。本来は、五つではないと思う。もっとたくさんの項目があ

るが、本分科会ではとりあえず五つにまとめる。今は各学年とかあまり細かいことはやらないほうが良いと思う。

アドバイザー

今日出たものを見ると、検討する各要素・項目の重点に考えているものは出てくるのではないか。抽象的にするか、具体的な文言にするかは検討の余地があると思うが、キーワードになるものがいくつかある。当然ながら同じキーワードのはず。こうしたもので平易な表現をしながら、結果的には子供にもわかるものが望ましい。どなたか複数で、今日のを参考に、いくつか文案を作る。さらにその上にある学校の教育目標みたいなものとして、いくつかに集約して表すことができる。まず、それぞれ重点と考えている項目の目指したい児童像に置き換える作業を。キーワードになる部分はほぼ共通している。次回整理したものを出してもらい、もう1回検討する。さらにⅠ、Ⅱ、Ⅲ期が目安になっているので、そこから可能な範囲でさかのぼる。もう一つ、この中でほとんど異論がないと思われるもの、重点と考えている一つに生命の尊重がある。どういう表現をするかは大変難しいが、最終的に9カ年の指導、成長をイメージしたとき、比較的言葉として出やすいと思う。

委員

この文言について一つひとつ見直していくのは、やはり2、3人で打ち合わせして、そこで出されたものをまとめていくほうが適している。例えば、生命尊重に関して四つの資料を見ると、言わんとしているものは共通している。

委員

生命尊重にあたって絶対欠かさないのは、やはり自分の命と他人の命、人間の命を大切にすること。それだけではなくて、人間以外にもいろいろな動植物にも生命がある、尊重しなくてはいけない、という気持ちもはぐくみたい。ただ、我々は動植物をいただいて生きている。その二つの面から、人間の自分と他人の命。それと地球上のすべての命も尊いものということを持っていければいいのかと思う。

アドバイザー

そのような形で平易な文章で表現するか、一応硬い形で学習指導要領の内容項目のような表現にするか。最初は、平易に表すことでいいと思う。まず、人間を中心に考えて自他の命。その次にすべての命。そのような理解で異論はないと思う。

委員

平易とか硬いというのは、あとでできる。とにかくどういう子供を育てたいのか、キーワードの共通理解を図ることが大事。

部長

生命尊重のキーワードは、基本的には自他の生命尊重と、すべての命を慈しむとか。

委員

規範意識はどうか。難しい言葉では、遵法と載っていた。規則やきまり、法に関するものを守ることにに対してはどうか。最近でいえばマナーやエチケットという言葉も使われている。

委員

もちろん遵法精神は重要だが、法律を守るのは最低限。道徳はその上に何かくるような気がする。遵法だけだとちょっと少ない。

委員

もっと発展的に自分たちの周りを良くしていくために規範意識が必要だという方向性があるのはいい。ただ遵法だけだと、守っていればいいのかという話になって少し薄い。

委員

何で規範意識を育てなければいけないのか。やはり住みよい社会。もう一つは、弱者を守れる社会。この二つが欠かせない。住みよい社会をつくる上では、もちろん法律も大事だが、法にないようなきまり・約束ごと、さらにマナーとかエチケット等が必要だという意義を子供たちにわかってもらう。最終的には、自分たちが少しでも行動できるように。法の遵守とか遵法精神というとなんか難しいが、少なくとも基本的なことは守る。例えば、インターネットや携帯でも法に触れるような扱い方をしている事例はあるので、それを守ってもらう。大きなことでなくてもクラスの決まりごとを守って、皆が仲よくできるようなクラスをつくるとか、その意義を理解させることと、自分たちが少しでも行動に移せる心を育てなければいけない。

部長

住みよい社会はいいのではないかな。

委員

住みよい社会をつくるためには、手をつないでいかなければいけない。手をつないでいくためには協力しなければいけないし、何らかのルールが必要。それをやると、もっとうまく人間関係を膨らませていける。そういうツールがルール、エチケット、マナー。そこを踏まえた上で、意識を持とうという規範意識だと思う。

委員

今の言葉の中でいうと、人間関係を膨らませるという言葉も味がある。自分たちの周りを良くしていくという言葉も、簡単そうで住みよい社会をよりわかりやすく表現している言葉。次に思いやりの心についてはどうか。

アドバイザー

その前に。住みよい社会、より良い社会、安全・安心。私たちが共同生活をして生きていく上で、安全かつ安心な集団社会をつくりたい。そこに参画している人たちが、自分を大切にしたり、相手に思いやりを出すのは、安心・安全なことが最低要件として求められる。そのため

にエチケットもマナーも含めた基本的なルールを守らないと成り立たない。今のような形でキーワードがいくつか出てくれば……。もう一つ参考になったのは、遵法という言葉は、それを知って理解するだけでなく、そのことの意義を理解して、積極的に態度化を促そうという方向性を持った。そうでないと生きてはたらくものにならない。とくに社会規範の場合は、子供たちが生まれる前から外的な規範、約束、決まりごととしてある。だから、教育指導で考えると順序性を間違えない指導が留意点としてはある。

思いやりは、言い方を変えると他者理解。他人の気持ち、心を推量する力。それを態度化する気持ちが思いやり。そういう概念が欠かせない。言葉で言えば協力、力を合わせること。言い方を変えて、相手の立場を理解する。おもんばかること。自他の尊重も大事な概念だと思う。

委員

人権プログラムから、自分がされたくないことは他人にもしないというのがあった気がする。

アドバイザー

今のは生かしたい。人にされて嫌なことは相手にするなという黄金律でもある。

委員

小学校だと助け合い、友情とか、いろいろな言葉が思いやりのところに重なって出ている。では、続いて自尊感情についてはどうか。

部長

自己の長所とか個性を認めて、充実した生き方ができる、そんなことが書かれている。

委員

「自分の良さに気付く」というのを小学校でもすごく大事にしていて、どこかに入れたい。

委員

自分の良さはなかなか見つけにくい。他人の良さは、子供たちは結構気づく。

委員

今肯定感を持っている子が少ない。私も指導の重点で第7学年に「級友との話し合いから自分のよさに気付かせる」を入れた。他人が認めてくれたよさは自分で評価するわけではないから、本当に自信となると思う。それと自尊感情は、自分の良さを気付かせるだけではだめ。最終的には本当にそれを生かして力強く生きる、自分の個性を生かしながら自信を持って生きていくのが大事。先行きがわからない中で、今の子供たちにそういう気持ちを持たせてあげたい。

委員

言葉的に中学校だと進路とか出てくる。小学生は夢とか希望を語るというのがあがるが、何か自尊感情につながる、この言葉は残してほしいというのはほかにはあるか。堂々と生きる。一ノ瀬先生は「志をもたせる」とあるが、この志は人生の目標とか、生きがいにつながる言葉か。

委員

それだけではなく、もっと広く。思いやりの心にもつながるが、もっと大きな意味で大きな人間に育ってほしい。例えばいじめにも流されることなくという意味もある。

委員

最後に、社会連帯の自覚はどうか。

委員

社会連帯のところでこそ、もっと大きくとらえる方向性を持って、将来に期待する子を育てたいという思いを持ちたい。社会正義とか差別をなくしていこうとか、豊かな国だけではなくすべての人々の人権が保障される地球をつくろう、連帯していこうという方向性が持てる。そういう目が養われるものを育てたい。最終目標だが、それが社会連帯につながる。

委員

さすがに国際社会の平和などに貢献する実行力は難しい。あくまで「貢献しようとする（気持ち）を持った子供」という視点を持った子供になってもらえれば、最終的にはありがたい。

委員

どういう状態だとそういう目を持つと言えるのか。何かわかる目標でないとやりようがない。

委員

一番大きいのはやはり戦争と平和に関して理解してほしい。あとはいろいろな人種に対する差別のない目を持ちたい。国際的なものを連帯と考えた場合に、やはり宗教とか文化の違いは大きい。例えば、日々の挨拶とか、食べ物とか。そういうものに対する理解と、尊重できる気持ち。そういう理解から始まると思って、あえて私は文化を入れた。

委員

目標を考えていて、そのときに子供たちが一つひとつ答えを出せるような目標があるといい。例えば、「自分がされたくないことは他人にもしない」と言ったら、「自分がされたくないことは何だろう」と考え、「他人にはこういうことをしちゃいけない」と、自分で考えられるようなものを目標にしたい。

アドバイザー

はよりの言葉に置き換えて言うと、共生。民族、歴史、地域、障害のあるなしを超えて、共にどう生きていったらいいのか。どうしたら、共に生きられるのか。まさに社会連帯を一言で言えば、共生というイメージ。これは、9年生でもイメージ化できるのではないかな。貢献というより共生のほうがわかる。

部長

社会連帯は、もともとある一定の集団の中の一員として自分の役割や責任を果たすことから出てくる。そうすると、ある時点で刺激を与えれば、その視野を広げることはそんなに難しいことではない。共生とか、そういう考え方を示せば、もっと広げて考えられることは出てくる。

委員

社会連帯に関しては、世界の発展等に目を向けられる子供とか、文化または人類の幸福。貢献、共生という言葉。こういう言葉をキーポイントとして、最後に自分の社会での役割とか責任を果たす意味での社会連帯。それも大事ではないか。郷土愛は小さくなりすぎか。

委員

消極的になってはいけないと思うが、地域を愛せているかという観点は大事。

委員

実際に中学3年生くらいになれば、郷土というか身近でいい。地域で何ができるかという考えはやはり持たせたい。

委員

決して逃げではなく、シンクグローバリー・アクトローカリーだと思う。

委員

第9学年の子供の姿について、出てきたものをまとめて一つに示すことが必要。そのために何人かで話し合っ、たたき台をつくる作業が必要になってくる。分担することは可能か。

委員

今話したキーワードをボードに書いていくと、まとまる気もする。会話のときにカードを作って貼っていけば、何かできそうな気もした。

委員

今日のまとめを早くいただきたい。

委員

中学校も小学校も次回まではものすごく忙しい。その間に集まって作業をやるのは無理。もう少しまとめてきて、皆で作業をやりながら整理していくしかないのではないか。

委員

最終目標の子供の姿をえがきたい。できれば、各学習期もそれによってある程度まとめられるかと思う。せめて学習期までは、いかがか。Ⅲ期がまとまるわけだから、Ⅱ期、Ⅰ期の構成をやってくるということ。

事務局

今後の進め方として、次の次くらいには1枚に意見を集約したものにしなればいけない。今度ホワイトボードを用意するので、整理をしていく作業をやりたい。四つの部会を調整するのは来年以降の話で、今年はそれぞれ提案する。ねらいや活動に同じようなものが出ても、そのまま置いておきたい。キャリアでは出た特別支援学級の話は、本部会では現在のところは考えないということしていきたい。

アドバイザー

先ほどまでの議論は、本委員会で初めて内容にかかわった話し合い、検討ができた。ほぼ要素としては出ているのかと。再構成して落ちるべきところに落とすことが、今後の作業で大事。材料はたくさんある。最後に他部会と重なるという話、重なるほうが自然だ。重要な部分は重なっていい気がする。